

中等教育研究開発室年報 第35号（2022年3月31日発行）別冊電子版  
2021年度 授業実践事例

英語科 高等学校第I学年

Reader's Theater の手法を用いた言語活動

授業者 高濱 良有

（教育研究大会 公開授業）

広島大学附属中・高等学校

## 高等学校 外国語科（英語） 学習指導案

指導者 高濱 良有

- 日時** 令和3年11月27日（土） 第2限 10:35～11:25
- 場所** 第1研修室
- 学年・組** 高等学校I年2組41人（男子20人 女子21人）
- 単元** Lesson 10 Playing the Enemy - The game that changed a nation -  
*Revised ELEMENT English Communication I*（啓林館）
- 目標**
1. 本文の内容や想像できることについて英文でまとめる。（思考・判断・表現）
  2. まとめた内容についてさらなる工夫を凝らす。（思考・判断・表現）
  3. 言い間違いや言いよどみがあっても発表を続けようとする。
- （学びに向かう力，人間性等）

### 指導計画（全8時間）

- 第一次 教科書本文の内容・言語材料の理解 3時間
- 第二次 言語材料の読み込み。行間の把握。 2時間
- 第三次 原稿のまとめと発表のための練習と発表  
発表の改善 3時間（本時 7/8）

### 授業について

螺旋階段をイメージし、毎単元類似した言語活動を通して、スパイラル状に学習を積み重ねることで英語力を高めていこうとしている。今年度の1年生は音声でのアウトプットを苦手としている生徒が多い印象を受けた。とくに音読活動をさせると、機械のように淡々と読み進める生徒が多かった。また、一つ一つの単語の発音に一生懸命になるあまり、音読を通じて英文の概要が把握できない生徒も多かった。そこで、教科書の内容を掘り下げ、行間を読ませ、自分達の手で気持ちを込め作り上げた台詞を読むことにより総合的に英語力を伸ばす試みをこれまで行ってきた。誰かが用意したテキストではなく、自分達で生み出したテキストを読むことで、学習動機向上を狙った。

実際には、まず授業者が Lesson 2 の内容を台本化し生徒に台本の基本的なモデルを示した。生徒はその台本を読み、演じることで内容理解の深化を図り、同時に聞き手に英語として伝わるように努めた。Lesson 4 では、生徒が台本作りに取り組み、自分達の言葉で物事を伝える経験を行った。Lesson 6 では、紙芝居の手法も取り入れ、発表を行った。

本時では、これらの活動を通じて音声としてより英語らしい発表を目指すのはもちろんではあるが、より良い発表をするためのヒントを授業者が示し、発表の改善を図る。それに取り組むことにより、生徒同士が刺激をし合い、これまで気が付かなかつたり、忘れてしまつたりしている視点を生徒が持ち、「よりよい」発表とは何かを考えることを狙いとしている。

### 題目 Reader's Theater の手法を用いた授業

#### 本時の目標

1. 本文の内容や想像できることについて英文で発表する。（思考・判断・表現）
  2. まとめた内容についてさらなる工夫を凝らす。（思考・判断・表現）
  3. 言い間違いや言いよどみがあっても発表を続けようとする。
- （主体的に学習に取り組む態度）

### 本時の評価規準（観点／方法）

1. 聞き手を意識し、効果的な発表ができる。

（思考・判断・表現／振り返りシート）

2. 協力して発表及びその準備に取り組んでいる。

（主体的に学習に取り組む態度／活動の観察）

### 本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
(前時まで) ・台本作成 予想する ・発表練習 (グループ)	・割り当てられたパートの台本を書く。 ・読む割り当てを決めグループ内で練習をする。	・本文の記述を基に、どのようなやりとりが行われているのかを想像させる。 ・第一次の時間で行った、物語の分析も参考にさせる。
(本時) ・ウォームアップ (ペア)	・帯活動のクイックレスポンスを行う。	
・発表 1 (グループ) 繰り返す	・発表をする班と聞く(評価する)班に分かれてそれぞれ行う。	・良い聞き手になれるよう留意する。 <b>【視線・反応】</b>
・改善 (グループ) 加える	・教員がそれぞれの班に改善する観点を与えて、それに応じた改善をさせる。 <b>【疑問文／展開／音量／速度】</b>	・授業者の意図が各班に正確に伝わっているかを巡視で確認する。
・発表 2 (全体)	・改善を経た発表を見てどういう工夫が感じられるかについて考える。	・いくつかのグループに発表してもらう。
・振り返り	・振り返りシートの記入	・次回の予告も行う。
備考		

評価シート

ループブリック

	英語の工夫	伝わりやすさ	構成
3	教科書の表現に頼りすぎず、本文の内容を、自分達なりの英語でまとめている。	はっきりと丁寧に英文が発表されており、無理なく理解ができる。	役割分担がしっかりとしている。展開のつながりがよく、本文の概要がしっかりと掴める。
2	教科書の表現をそのまま使うことも多いが、自分達なりの表現でまとめている部分も半分程度はある。	一部声が小さく、聞き取りにくいところがあるが、概ねの内容が伝わってくる。	役割分担が伝わってこない部分がある。急に話や台詞がとんだりして、つながりが悪い部分がある。
1	教科書の表現をそのまま使うことに終始している。	音声がほとんど聞き取れず、内容があまり伝わってこない。	役割分担が伝わってこない。急に話や台詞が飛び、つながりが悪く何が起きているか分からない。

評価(前半・後半)

	英語の工夫	伝わりやすさ	構成
Part 1	3・2・1	3・2・1	3・2・1
Part 2	3・2・1	3・2・1	3・2・1
Part 3	3・2・1	3・2・1	3・2・1
Part 4	3・2・1	3・2・1	3・2・1

自分の振り返り(自由記述)

<発表1> 班の中でどのような役割をしましたか？また、努力した点は何ですか？

<発表1> 繰り返し発表することでどのような変化がありましたか？

<発表2> 改善すべき項目を意識して、発表を改善させる時に苦労したことについて書いてください。

<聞き手として> 発表者の方を見たり、うなずいたりして、発表する人が安心できましたか？

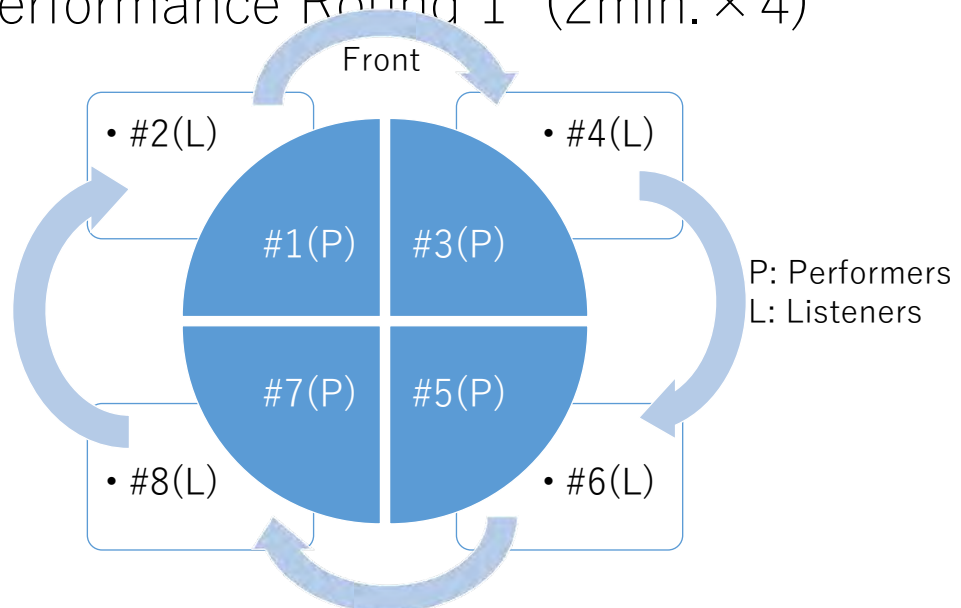
<その他自由にコメントをどうぞ> ※名前下のスペースも使っていいですよ。

I年( )組( )番 氏名( )

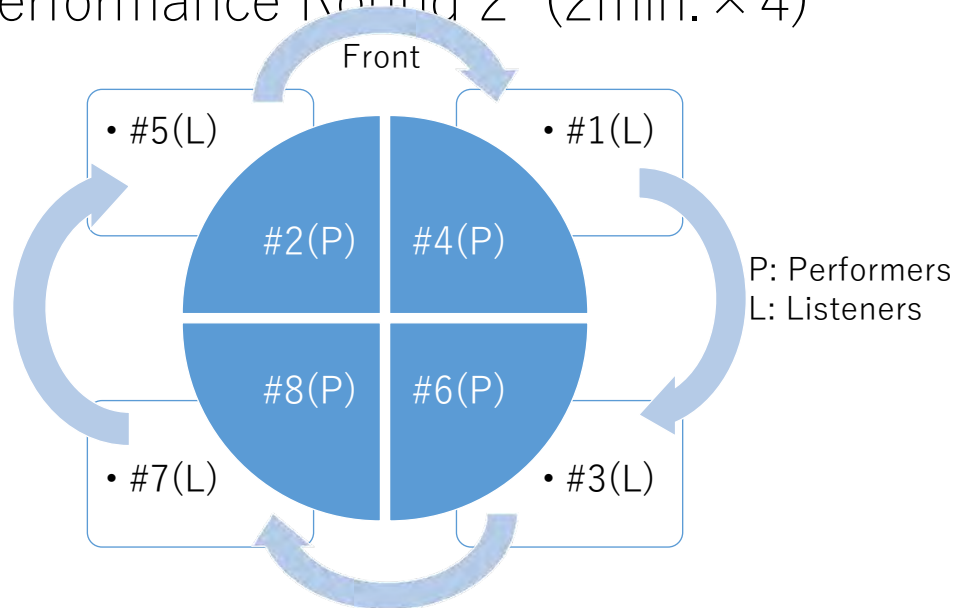
## Performance

- $(2\text{min} \times 4) \times 2$
- Performers are supposed to
  - try to make eye contacts in your group.
  - try to convey your contents to listeners.
- Listeners are supposed to
  - be good listeners.
  - fill in your evaluation sheet.
  - (and give short comments if time permits.)

### 1 Performance Round 1 (2min. $\times$ 4)



## 1 Performance Round 2 (2min. × 4)



## Improvement

- Takahama gives a mission to each group.
- Using that, improve your presentation.
- Each part is supposed to be given different missions.

## 実践上の留意点

### 1 授業説明

・本授業は単発的に行うものではなく、長期的な展望に立つて行うものである。年間を通じて、どのように自分の考えを英文に乗せ、それをどのように表現するのかということについて試行錯誤をするという活動を段階的に積み上げてきた。

・本単元では特に「行間を補う」ということに主眼を置いた。英語では相手に物事を正確に伝える必要が日本語以上にあるが、普段生徒は思いついた日本語をそのまま英語にしようとする。原稿内容を話し合う段階から、授業者が展開の飛躍について無理がないかについて声をかけたり、内容を確認したりした。

・ローテーション式の発表を行った。こうすることで、発表者には2つの利点があると考えられる。1つの発表を複数回行うため、繰り返し発表をすることを通じて自己の成長を感じることができる点である。2つ目は、聞き手の数が少人数となるため、心理的負担が少なく聞き手のことを考えながら発表ができるということである。聞き手としても毎回違う発表を聞くため飽きがなく、当事者意識をもって活動に参加できるという利点がある。評価については、指導した内容がパフォーマンスに表れているか否かを評価する。

### 2 研究協議より

・発表をする回数と、聞く回数の割り振りについて再考する必要がある。今回は「4回発表」を1つのまとまりとして、クラスを2分割したが、「2回発表」→「全体への助言」→「2回発表」という流れや、「2回発表」→「発表者と聞き手の役割交代」→「2回発表」という流れを1つのまとまりとするのも良いのではないかというように、発表や指導のタイミングについての議論が行われた。

・生徒参加型の授業であるため、どのように生徒のモチベーションを保つかについても意見交換があった。今回はグループで台本を作るという活動を複数回の授業で行ったため、英語を苦手としている生徒が何をすべきなのか、何ができるのかということについてはこまめに指示を行った。

・帯活動で行っている内容と、本日の活動の内容とのリンクの可能性についても議論が行われた。具体的には、既習の語彙を用いた英作文を口頭で行かせたのであるが、その内容を黒人や差別の問題に関するものにする事でより授業内容にまとまりが出せるということも考えられる。

